

留萌南部森林管理署における「森林環境教育」の取組について

留萌南部森林管理署

村上 大和
堂坂 文彦

取組の背景・目的

森林環境教育は、森林内での様々な体験活動等を通じて、森林と人々の生活や環境との関係についての理解と関係性を深める位置付けとして、国有林では、森林環境教育の実践の場として国有林野が利用されるよう、プログラムの整備やフィールドの提供等を積極的に進め、森林や林業への理解を深めてもらえるよう取り組んでいます。当署においても「遊々の森」「ふれあいの森」など協定締結者との間で森林教室やカミネッコンを使用したどんぐり作戦等を実施していますが、低学年が対象の「森林とのふれあい」から小学校高学年・中学生などを対象とした「森林の働きや仕事としての林業」など学校教育と社会教育を結び付けた継続した取組に発展できないかを模索しています。

取組の内容・成果

① 苫前町教育委員会と協定を締結している「森の楽校サンケベツ遊々の森」(三溪担当区部内2037林班 協定面積18.84ha)においては、苫前小学校・古丹別小学校の低学年を対象に野山の散策をして自然に触れ合う取り組みや万華鏡の作成、紙芝居アニメーション「シンタローのぼうけん」の視聴などを実施しています。

参加した児童からは「木の種類がいっぱいあってびっくりした。万華鏡に木の葉っぱを小さくして入れて覗くととてもキレイだった。シンタローのぼうけんが面白かった。」などの感想が出され、実際に山の中に入って森林にふれあうことで、改めて発見することがあることが分かりました。

② 留萌ライオンズクラブと協定を締結している「チバベリふれあいの森」(幌糠担当区部内97林班 協定面積0.28ha)においては、森林の大切さとミズナラ植樹による樹木の成長を学習することを目的として、「どんぐり作戦」を潮静小学校の児童を対象に毎年実施しています。

これはカミネッコンをそれぞれ児童が作成し、当署でどんぐりから育てたミズナラ苗木を植樹しています。



木の特徴の説明を真剣に聞き入る児童
「この木は何かな？」



作成したカミネッコンにミズナラ苗木を入れて完成です



ミズナラ苗木を植えたカミネッコン



完成した万華鏡に木の葉を入れて
「きれいに見えるかな？」

今後の展開

これまで当署で取り組んできた森林教室などは森林とのふれあいなど単発の取組であり、そこから森林の役割や機能、林業として山の中でどのような仕事をしているかを実際に肌で感じてもらう取り組みを模索していくことが必要です。

国有林では地拵から植付、下刈、高性能林業機械を使用した間伐作業など林業を理解してもらううえで最高のフィールドを持っていることから、現地で見学することで肌で感じるができると思っています。

また、このような取組が継続して実施できる体制をどうしていくかが課題であり、各学校や教育委員会の理解と協力が必要なことから意見交換の実施や各署の取組を参考にしていきたいと思っています。



人 to 木「林業作業循環図」
(北海道森林管理局 平田美紗子さん作成)
～北海道森林管理局HPより～